

---

yes,subway!

雪夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

yes , subway !

### 【コード】

N1093Z

### 【作者名】

雪夢

### 【あらすじ】

サブウェイマスターと、私の話。

2525であげられてる動画ネタを含みます。

## 初め、出会い

ある曇りの日。

私は、下を向いて歩いていた

すると薄く、影がみえて

気付いた時には遅かった。

私はその人にぶつかってしまった

「すつ、すみません！」

急いで頭を下げる

「こちらこそすみません、怪我は無いですか？」

「はい、大丈夫です・・・」

その言葉で顔をあげてみると、そこにはそっくりな顔の背が高い白と黒の男の人が

「それなら、良かったです。」

「あの、御詫びしたいのですが・・・」

私がつつかってしまったのは、黒コートをきた方の男の人

「御詫びなんていいですよ。」

「こちらも前方不注意でしたし」

「でも・・・お願いです、御詫びさせてください」

そういつて私が頭を下げると、今まで黙っていた白いコートをきた方の男の人が、

「ノボリ兄さん、この子お願いとまで言ったんだし、素直に受けようよ。受けるだけが嫌ならこっちからも御詫びすればいいんじゃないの?」

「そうですね・・・頭を下げてくださいと言ったことですね」

やった・・・!

そう、私は一目惚れをしたんだ。

「あ、じゃあ私の家すぐそこなので、寄って行ってください」

そして、親は仕事に出掛けているから誰も居ない家に招待した

「どうぞ・・・あがってください」

「おじゃまします」

「おじゃまします」

「お茶いれますね。」

あ、何か苦手とかありますか？」

「私は特に無いです」

「ボクも特には無いかな？」

「じゃあ、どうぞ。」

お茶とお茶菓子です」

「いただきます」

「ねえ、質問してもいい？」

あ、今までのせりふ、上が黒の方。  
下が白の方ですよ

「はい、何でしょう？」

「御名前は？ あ、ボクはクダリだよ！ こっちはノボリ兄さん」

「私は、ユキナって言います」

「ユキナちゃんか、しっかりしてるんだね！」

「え？ そ、そんなこと無いですよー！」

「こら、クダリ。 ユキナさんが困ってますよ」

「本当に！？ ごめんね？」

「あ、別に大丈夫ですよ。

楽しいですし、ノボリさん、クダリさん。      ありがとうございま  
す」

「なんで御礼してるの（笑」

「そうですね、御礼を言うべきはじちらです。      ありがとうございま  
す」

「いやいや、こちらこそです・・・」

「ユキナさん、今度はこちらから、御詫びさせていただきます。今日はユキナさんに御詫びしていただきましたので、後日、連絡させていただいてもよろしいですか？」

「はい、いいですよ。」

あ、今連絡先書きますね」

後日、連絡・・・！

嬉しいけど、緊張はんばない・・・

「はい、これ私の連絡先です。いつでも連絡ください」

「わかりました。一応私の連絡先、渡しておきますね。」

「はい、ありがとうございます。ノボリさん」

「いえ、こちらこそ今日はありがとうございます」

そう言って微笑むノボリさん。

か、かつこいい・・・！

勇気出して御詫びさせてくださいって言って良かった、本当に良か

った！

そして、その後しばらく話してわかったこと

2人はサブウェイマスターで、今の格好は制服らしい。  
そして、買い物に出掛けて帰る途中少し横を向いたその間に、私とぶつかってしまったらしい。

その他には、クダリさんのノボリさんに対する事だとかを聞かされたり．．

かなり仲良くなれましたよ！  
やりました、私頑張りました！

「じゃあ、失礼しますね」

「はい、またいつでも来てください」

「またね、ユキナちゃん！」

「はい、クダリさん！」



そして、ノボリさんとクダリさんは帰って行った。

楽しかったなあ．．

あんなに笑ったの久し振りかも知れない。

大爆笑を越えた笑いだったしね．．（笑

また会う日が楽しみだな！

これが、出会い。

そして、馴れ初めだったり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1093z/>

---

yes,subway!

2011年12月4日01時50分発行